

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

国立環境研究所地球環境研究センター～ココが知りたい地球温暖化～ 「温暖化と生物の絶滅」(要旨)

- △ 最新のリスク予測研究に基づけば、地球の温度が2℃、3℃及び4.3℃上昇した場合、絶滅の危険にさらされる種は、5.2%、8.5%及び16%と試算されています。人間という生物種は温度変化に強く、さらに衣類住居等の人工物を利用した適応力もあることから、気温が2-3℃上昇しても絶滅することはない、と考えられています。ただし、温暖化に伴う人間存続の可能性に関するシナリオは単純なものではありません。

- △ 地球上では35億年の生物史上5回の大絶滅が起きたとされ、最新のケースは恐竜絶滅で知られる約6,500万年前、生物全体の半数以上の種が絶滅した、と考えられています。絶滅速度は1年当たり10-100種と計算されていますが、現代のそれは1年間に40,000種という推定値が出ています。あまりに速過ぎて、次の世代の生物種を生み出す進化時間が追い付かず、生物多様性が完全に崩壊するのではないかと危惧されています。

- △ 国際自然保護連合の調査によれば、現代の絶滅をもたらしている最大の要因は、人間活動による生息地の破壊であり、進行が著しい地域は熱帯雨林とされます。地球上で最も生物多様性の高い地域である熱帯林は、その小さなエリアにおいて猛烈な勢いで森林伐採と土地開発が進められています。北へ移動するにしても、生物の移動能力には種間で大きな開きがあり、植物はすぐに移動できません。

- △ エネルギーと物質の大量消費が、地球温暖化の進行と生物の生息環境悪化を招き、生物多様性の減少を招いています。人間にとって自然生態系はなくてはならないものです。その恩恵なくして人間の存在は成り立たないのです。これ以上生物多様性が減少しないように策を講じることは、人間社会の存続のためにも大切なことです。

以 上